



当院で導入している最新の内視鏡システムについて オリンパスEVIS X1 導入！

当クリニックは、オリンパス社製の「EVIS X1」という最新の内視鏡システムを佐賀県初導入した施設です。このシステムは内視鏡による病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指した全く新しい技術を搭載することで早期癌の発見を可能にしています。また、最新のビデオスコープとの組み合わせにより精度の高い検査を実現し、質に加えて効率も向上したことで、スピーディに精緻な検査・診断・治療が可能になり、患者様へのご負担も軽減しています。クリニックでありながら、がん専門病院や大学病院と同等以上の設備を整え、精度の高い最高水準の内視鏡診療を追求しています。また、当院では5万例以上の内視鏡検査の実績があり、ほとんど痛みなく検査を受けていただけます。

『LASEREO 7000システム』(富士フイルム社)も導入しております。

レーザー光源を搭載した次世代内視鏡システム『LASEREO 7000システム』(フジノン)を導入しております。レーザー内視鏡では、その特性を利用した狭帯域光観察機能を搭載し、目的に応じて、最適な観察方法を選択できます。通常の観察に加え、粘膜表面の微細な血管や構造などを強調して表示する「Blue LASER Imaging (BLI) 機能」や、画像の赤色領域のわずかな色の違いを強調して表示する画像処理機能「Linked Color Imaging (LCI)」という特殊な観察方法が可能であり、腫瘍(BLI観察)や炎症(LCI観察)をより早期に発見可能となります。特に、7000シリーズはBLI機能を使用して中遠景を観察する際の観察画像の明るさが向上され、より微小な病変の観察を行えるようになりました。

★LCI (Linked Color Imaging) 画像

赤みを帯びた色はより赤く、白っぽい色はより白くなるように色の拡張・縮小を行い、粘膜の微妙な色の違いを強調し、炎症診断をサポートします。

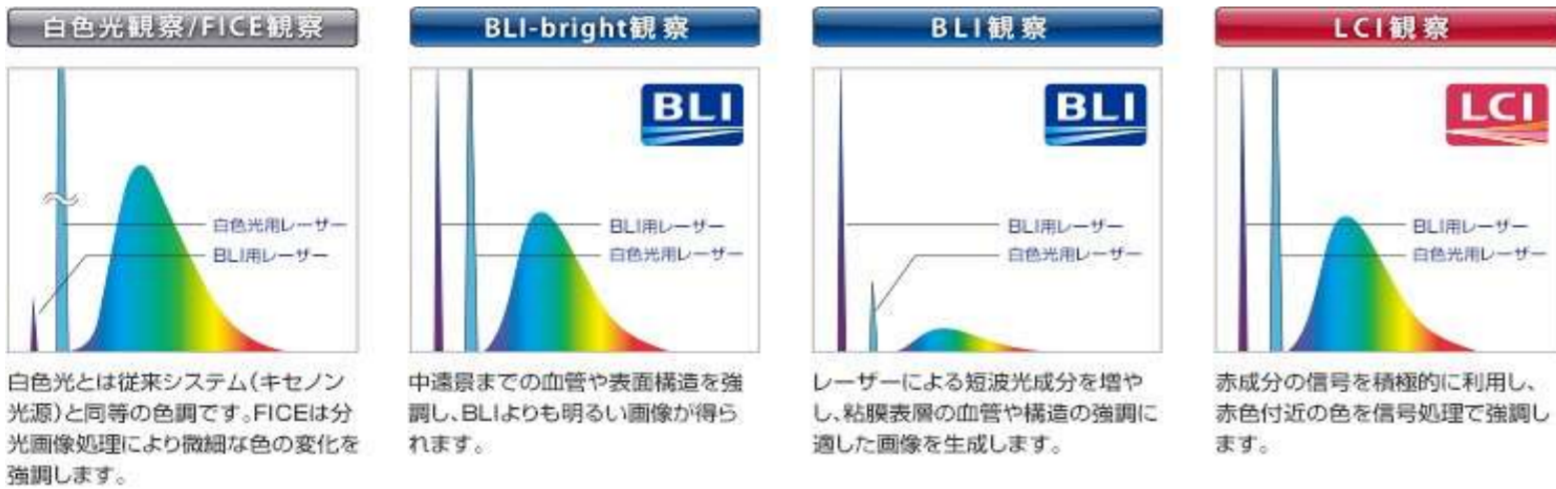


画像提供：川崎医科大学

左写真) 炎症の診断において重要な色は、赤色領域に密集しており、見分けにくい

右写真) 粘膜のわずかな色の違いが、強調されて表示される種類のレーザーの発光強度比を変えることで、2白色光観察と

狭帯域光観察それぞれに適した光を照射し、画像処理との組合せによって4つの観察タイプを切替えて使用できます。



★画像処理でくっきり

FICEとは、画像を調整することで血管強調画像などを再現し病変の性格や広がり方を正確に診断しようとするシステムです。がん等の診断はもちろん病変の境界がより明瞭になるため見逃しを防ぐ上でも有効です。



最新内視鏡を導入することで、より正確で安全、苦痛の少ない検査を

当院の内視鏡検査のこだわり



- POINT1 : 麻酔と最新内視鏡を使用した、苦痛の少ない検査を実現
- POINT2 : 内視鏡専門医師による高精度の検査をご提供
- POINT3 : ピロリ菌を積極的に検査。感染している場合は除菌を実施
- POINT4 : 過去の内視鏡検査 5万例以上、大腸検査3万例以上の実績
- POINT5 : ガイドラインに則った、院内感染防止策を実施